

特定非営利活動法人宇都宮まちづくり推進機構 中期経営計画評価表（平成30年度実績）

平成31年4月1日現在

I 組織の概要

1. 基礎情報

所在地	宇都宮市中央3丁目1番4号 栃木県産業会館2階		設立年月	平成11年10月（任意団体設立） 平成21年9月（NPO法人化）	
市所管課	総合政策部 地域政策室		代表者	須賀 英之	
ホームページアドレス	http://www.machidukuri.org/				
基本財産（資本金）	—	主な出資者	出資額	出資割合	
		—	—	—	
市出資額	—	—	—	—	
市出資割合	—	—	—	—	
設立目的等	公共団体と民間団体が連携して宇都宮のまちづくりに取り組むための中核的な組織として、魅力ある中心市街地の形成を図ることで、宇都宮の将来の発展に寄与することを目的とする。				
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある中心市街地の形成に向けた事業 中心市街地としての都市拠点の機能向上に向けた事業 中心市街地の賑わい創出に向けた事業 中心市街地の整備改善に関する事業 				
公益目的事業比率 （公益法人のみ）	—				

2. 組織・人員情報

役職員数	役員				職員					
	常勤	理事	1	うち市OB	正規職員等			嘱託・臨時職員等		
					再雇用職員 （フルタイム）	0	理事との 兼務	0	嘱託職員	0
非常勤	理事	17	1	派遣等 職員	市	1	0	臨時職員等 （アルバイト等 含む）	1	0
	市以外	1	0	市OB職員	2	1				
計		20	2	計		4	1	計	1	0
役員の平均年齢（歳）	61.7	役員の平均年収（千円）		0	情報公開制度の有無		0			
職員の平均年齢（歳）	58.8	職員の平均年収（千円）		5,133	個人情報保護体制の有無		0			

3. 財務状況

単位（千円）

【貸借対照表】	27年度決算	28年度決算	29年度決算	30年度決算	備考
資産	16,005	15,809	22,596	23,529	
負債	2,601	1,542	2,922	1,697	
（うち損失補償等額）	0	0	0	0	
純資産	13,404	14,267	19,674	21,832	
（うち利益剰余金）	5,314	4,716	11,622	13,779	

※一般財団等は、純資産を正味財産合計、利益剰余金を一般正味財産として読み替えています。

【損益計算書】	27年度決算	28年度決算	29年度決算	30年度決算	備考
総収入	27,218	27,897	34,851	32,034	
（うち市補助金等）	17,593	17,674	20,674	19,134	※29年度は、補助金とは別途にイエローフィッシュリニューアル交付金 2,500千円を交付
（うち市委託料等）	0	0	0	0	
経常損益	1,468	1,126	1,661	1,739	
当期損益	1,275	△ 599	6,906	2,157	

※一般財団等は、損益計算書を正味財産増減計算書、経常損益を当期経常増減額、当期損益を当期一般正味財産増減額として読み替えています。

【宇都宮まちづくり推進機構】

Ⅱ 各項目の取組状況

1. 事業の充実・重点化

No	取組項目	目標	基準値	実績値				
			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
1	中心市街地活性化事業の充実	平成31年度中 2事業	1事業	1事業	1事業	2事業	2事業	
2	事業協賛金の拡充	平成31年度末 7,000千円	5,000千円	4,640千円	4,006千円	4,148千円	3,592千円	

2. 地域における公益的活動の推進

No	取組項目	目標	基準値	実績値				
			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
3	地域連携事業の拡充	平成31年度中 4事業	2事業	2事業	3事業	3事業	4事業	

3. 健全経営の維持と経営の更なる改善

No	取組項目	目標	基準値	実績値				
			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
4 (共)	市からの補助金・負担金の適正化	職員の適正配置等を踏まえた補助金の適正化	17,549千円	17,593千円	17,674千円	18,174千円	19,134千円	
5	新規会員の獲得	平成31年度末 150会員	128会員	145会員	139会員	145会員	148会員	

4. 組織・人員体制の強化

No	取組項目	目標	基準値	実績値				
			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
6 (共)	常勤役職員数の適正化	継続的な見直し	市OB職員2名	市OB職員2名	市OB職員2名	市OB職員2名	市OB職員2名	

5. その他

No	取組項目	目標	基準値	実績値				
			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
7	情報提供の充実	新たな媒体による情報の提供	機構HP	実施	実施	実施	実施	

Ⅲ 総合評価

<p>団体による 自己評価</p>	<p>【評価】</p> <p>①中心市街地活性化事業の充実 早稲田大学より「都市計画等基礎データ収集業務」を受託し、事業収益の確保を図った。今後も、関係団体や会員企業等と連携を深め、中心市街地の活性化に資する事業を充実させ、収益の確保に努めていく。</p> <p>②事業協賛金の拡充 新規の協賛事業の実施には至らなかったものの、対象事業の定着が図られてきたことにより、一定の協賛金を確保していることから、更なる拡充に向け、新規会員の募集と併せて広く協力依頼を行った。今後も、協賛者のメリットを高めるため、協賛社名の掲出に係る効果的な広報手法などについて検討していく。</p> <p>③地域連携事業の拡充 これまで、かまがわ川床桜まつり事業における近隣店舗のデリバリーサービスの実施や、中心商店街と一体となって運営するイルミネーション事業のほか、オープンカフェ事業における自治会や教育機関への押しチャリの協力などの連携をしてきたところであり、平成30年度は宇都宮共和大学の協力を得て、LRTのルート予定となる大通りに面する同大学に、LRTの実物大パネルの掲出を実施した。</p> <p>④市からの補助金・負担金の適正化 各種事業における協賛金の拡充や、事業収益の確保に取り組んだ。引き続き補助金だけに依存せず、自立的な事業運営ができるよう努めていく。</p> <p>⑤新規会員の獲得 入会強化月間を設け、既存会員からの紹介による入会促進を図ったほか、CSR認証企業やロータリークラブなど各種団体の交流や意見交換の場など、様々な機会を捉えた積極的な周知活動を行い、新たな会員を確保することで会費収入の確保にも努めた。また、一昨年度よりまちづくり活動拠点「イエローフィッシュ」の機能向上を行い、昨年度は「中心市街地活性化アドバイザー制度」を創設するなど、まちづくりの担い手の育成に力を入れており、こうした取組を通して、まちづくりの人材を確保していく。</p> <p>⑥常勤役員職員の適正化 効率的な法人運営業務を実施し、円滑な事務事業を遂行できる組織体制を確立するため、かまがわ川床桜まつりの際の夜間警備など外部委託の導入や経理事務の専任職員の配置などを行った。引き続き、事務事業の効率化に努めていく。</p> <p>⑦情報提供の充実 ホームページのほか、フェイスブック等の新たな情報提供媒体や新聞等によるパブリシティを活用し、活動内容の周知や中心市街地への来訪を促進するための魅力の発信に取り組んだ。また、機能向上を図っているイエローフィッシュの利用促進を図るため、ホームページにおいて予約状況の確認ができるようにするなど、多くの人にまちづくり活動に参加してもらうための取組を行った。</p> <p>いずれの取組についても概ね順調に進行しているが、自立的・安定的な経営基盤を確保するため、今後とも自主財源の更なる確保を図るとともに、事業体制を強化しながら、中心市街地の活性化に向けた効果的な事業展開をしていく。</p> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな収益事業の発掘 ・ 自立的・安定的な経営基盤の確立 ・ 会員数の確保及び協賛事業の拡充 ・ 魅力ある中心市街地の形成に向けた事業の充実・強化
<p>所管課による 評価</p>	<p>【評価】</p> <p>賑わいと活力のある中心市街地の形成に向けては、将来の目指すべき姿を示した「都心部グランドデザイン」の戦略プロジェクトである「第2期宇都宮市中心市街地活性化基本計画」に基づき、官民一体となって推進しており、宇都宮まちづくり推進機構については、官と民とを繋ぐ中間的組織として、中心市街地の活性化に係る各種事業を積極的に展開している。</p> <p>特に同機構が事務局となり、昨年度に2年目の実施となったオリオン通りでのオープンカフェ事業については、周辺の空き店舗の減少や夜間・休日の通行量の増加など、大きな成果を発揮している。</p> <p>また、大学生など若者を取り入れたまちづくり活動の拠点として、平成29年度に改修したイエローフィッシュについては、宇都宮市創造都市研究センターによる活動等、その利用促進を図ることで利用実績を大きく伸ばしたほか、新たなまちづくりの担い手育成にも努めている。</p> <p>さらに同機構については、これまで本市の将来のまちづくりに関するシンポジウムの開催など先導的な役割を果たしてきたが、昨年度においては大通りにLRT車両の実物大パネルを掲出し、LRTが走る魅力的なまちの姿を市民に効果的に発信した。</p> <p>一方、運営面において、新規会員の獲得や事業協賛金等の資金確保は、都市のスポンジ化への対応や賑わい創出など中心市街地が直面している課題解決に向け、自立的・積極的に事業展開していくための原動力となることから、機構の持つネットワークを駆使して、引き続き、精力的に取り組んでほしい。</p> <p>今後とも、同機構については、官民一体での本市の中心市街地活性化に欠かせない組織であることから、柔軟性や信頼度といった同機構が備える特徴を十分発揮できるように一層の自立的で安定した経営基盤の確立を期待したい。</p> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会員数の確保及び協賛事業の拡充 ・ 新たな収益事業の発掘